

学習指導案（教科：家庭科）

1 授業内容

科目：家庭科

単元：家庭経済

2 本時の指導計画と評価方法

(1) 単元の目標

生活と経済のつながりにおいて、家計の構造や経済全体の仕組みとかかわりを理解させ、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について考え実行する態度を育む。

(2) 本時の目標

健康で文化的な生活を送るために、最低限必要な収入について理解し、一人暮らしの1か月の家計について考え、収支のバランスについて工夫できる。

(3) 本時の評価基準

（知識・技能）生活していくために必要な費用について理解している。また、経済計画を立案し、その重要性を認識することができる。

（思考・判断・表現）生涯を見通した生活における経済計画について考え、工夫している。

（主体的に学習に取り組む態度）将来を見通した経済設計に関心をもって取り組むことができる。

(4) 本時の展開

時間	指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	○前時の復習 ○本時の予告	・人が生活する上で必要な項目を考える。 ・収入に対して、手取りがいくらになるのか予想する。 ・本時の課題を理解する。	・家計支出の構成と可処分所得について確認する。 ・本時では、一人暮らしの家計について考えることを共有する。
展開 (40分)	○支出項目ごとの具体的な例の提示 ○一人暮らしの家	・一人暮らしにかかる費用や生活するのに必要な生活費について予想する。 ・項目ごとの具体的な費用の目安について、先生の説明を聞く。 <u>→地域別で平均金額が大きく異なる家賃については、参考 URL をリンクふせんで配布する。</u> ・一人暮らしにかかる費用について考え、	・支出項目ごとに選択肢を例示し、一人暮らしの支出について具体的に考えることができるようにする。 ・1回目では理想の生活を想像させて

	<p>計（支出）をシミュレーションする。 （ワークシート1）</p> <p>○進路別の平均収入を確認し、1か月の収支を考える。 （ワークシート2）</p> <p>○グループで家計を見せ合い、収支が0又はプラスになるように改善する。</p>	<p>一人暮らしができる最低限の生活費を予想する。 →生徒配布機能にて授業で使用するテキストふせんを配布する。 →ふせんを活用し、自分の意見を入力する。</p> <p>・「4年生大学卒」「短大・専門学校卒」「高校卒」のそれぞれの進路から平均収入を選択し、自分が考えた「理想の一人暮らし」と照らし合わせながら、1か月の家計に取り組む。</p> <p>・グループ内でふせんを送受信し、共有する。 ・他の人の意見をふまえた上で、ワークシート1のふせんを複製して、収支が0またはプラスになるように家計を見直し、改善する。 ・お互いの家計の違いや工夫についてグループでふせんにまとめ、提出する。</p>	<p>おくことで、限られた収入の中での実現が簡単ではないことに気付かせる。</p> <p>・時間をみて、グループの人数を調整する。</p> <p>【思考・判断・表現】 2回目は、1回目の反省を生かし収支が0になるように改善をさせ一人暮らしの1か月の家計について考え、収支のバランスについて工夫しているか。</p> <p>【知識・技能】 健康で文化的な生活を送るために、最低限必要な収入について理解しているか。</p>
<p>まとめ （5分）</p>	<p>○本時のまとめ</p> <p>○課題の提示</p> <p>○次時の予告</p>	<p>・家計が苦しいときに、生活を維持するためにできる工夫や手立てについて確認する。</p> <p>・課題を確認する。</p> <p>・配布・課題機能を使用し、課題を生徒に配布する。</p>	<p>・本時の活動を通して気づいたことについての感想と学習に対する自己評価を課題とする。</p> <p>・学習の自己評価をすることで理解度を確認する。</p> <p>・生涯を見通した長期的な経済計画についての学習をすることを伝える。</p>

(5)ICT 活用計画

ICT を主に活用するのは、展開でグループ活動を行う部分である。

（手順）

①教員は、授業で使用するワーク1のテキストふせんを生徒全員に配布する。

→ClassPad.netの生徒配布機能を活用

③生徒は、教員に配布されたテキストふせんに書き込み、本時の活動をすすめる。

→ClassPad.netのテキストふせんを活用

④グループでふせんを送りあい、話し合いを行う。

→ClassPad.netの送受信機能を活用

⑤話し合いを踏まえて、家計を改善する。

→ClassPad.net のテキストふせんを活用

(ClassPad.net を活用する効果性について)

- ・ふせんのコピー機能を用いることで、当初の考えを残しながら変更が必要な項目のみ変更することができる。
- ・送受信機能を用いることで、効率的に意見交換ができる。